

## ◆特集 改憲議席3分の2を許すな!

みんなが希望をもてる社会へ私と一緒に変えていきましょう

新社会党青年女性委員会代表

おかざき彩子

新社会党青年女性委員会代表の岡崎彩子です。私はこの夏に行われる参議院選挙に、社民党比例共同名簿の一員として闘うことを決意しました。

私は、生きづらくて引きこもっていたこともある人間です。そんな私が、なぜ皆さん方と共に候補者として闘う決意をしたのか、変えていきたいことは何かを知っていただけだと思います。

### 政治が作り出した非正規社会

私は1980年生まれの42歳、独身です。超就職氷河期真っ只中に、社会に出ていくことになった世代です。新卒にも求人がまともになく、まして様々な理由で足踏みがあれば、入り口から締め出された時代です。求人のもくも、派遣会社への登録によるもので、要するに入り口から非正規雇用しか「働く場所」はありませんでした。資格を取って卒業したものの結局コンビニのアルバイト

をしているという人はどこにでもいたし、数年我慢すればと、大学院に進んだ人も、その先に就職先はありませんでした。生活費を手にするためには、ワーキングプアでも何でも働くしかなく、失業と向き合い続けている。これが「ロスジェネ世代」の私たちの現状です。

終身雇用が当たり前の時代に社会人となり、頑張れば結果が出るという価値観を持っている親たちの中には自分の子どもが「まともな就職先」に就けないことを、恥ずかしいことだとする空気もあったと思います。家族も社会も、自分自身も「自己責任論」が骨身にまで染みつき、私たち世代は自分を肯定できなくなる苦しさを経験し、今も苦しんでいる人が多くいます。

私は新社会党に入ってから、先輩たちや同世代の話にふれて、私たち世代が抱えてきた問題は、家族や個人の責任ではない、社会が作り出した制度によるものだと実感できるようになりました。特に労働者の4割を超える非正規労働者は、1986年にできた労働者派遣法が、改



街頭演説中の筆者（左）（2022・5・16 埼玉県浦和駅頭）

悪に改悪を重ねた結果です。低賃金や失業の不安といつても向き合っている生活から抜け出せないような仕組みや扱いは間違っています。

私と同じように引きこもりを経験した当事者の方々とお話しをする機会がありました。「就職活動時、ひたすら履歴書を送った。100通、それ以上送った。すべて不採用の通知が返ってきた時、どんどん自分がダメな人間になっていくように絶望するしかなかった」「就職した会社が、地元から撤退して失業した。働く場を失くして、親の介護を引き受けたが本当に苦しかった。でも助けてほしいと言えなかった」「短期間働いても契約切れと同時に全て終わる。人間関係と言われても、作ることなど、無理だった。壊れていくしかなかった」。非正規雇用は短期間で職場が変わるため、人間関係を作ることができません。完全に社会との接点を失うことにもつながります。あるいは、社会や家庭の中で、なぜ「まとも」な仕事に就けないのかと問われ、自分で自分を責めながら孤立していくことにつながっていきます。

生きづらさの原因は一つではないにしても、非正規労働を認める法律ではなく、働く人は全て正規労働者として、賃金や労働時間、健康で働ける仕組みを誰にも平等に扱う制度を確立させることから改善できるはずです。

## ◆特集 改憲議席3分の2を許すな!

### 女・シングル

#### それでも生きていける社会に

女性だからというだけで、仕事、家庭、地域の慣習にまで、深く浸透する差別があります。一人の人間として生きていけるように、もっと意識して制度を変えていかなければと思います。選択的夫婦別姓を制度化することとは、その入り口です。そして特に格差が著しい賃金は、女性労働者の大半が非正規雇用であることが響いています。女性、42歳、独身の私でも、一人でこの社会で安心して生きていけるように制度を改善させたいと思います。

世界銀行が3月1日発表した、190カ国・地域の経済的な権利を巡る最新の男女格差調査によると、職業や育児、年金など8項目の評価の総合点で、日本は昨年の80位から103位に急降下しています。職場での待遇や給与の項目でかなり低い点数になっているといえます。世銀担当者は、「日本の女性の法的平等を改善するための改革を検討する必要がある」と強調しているようですが、制度を作る場所＝議会に、私たち自身の声を持ち込み、制度を作り替えていくことが私は大事だと考えています。

### 武力で平和は守れない

ロシア軍がウクライナに侵攻しました。原子力発電所を攻撃し、核兵器使用をちらつかせてもいます。新社会党はロシア軍の暴挙に抗議し、即時撤退を求めています。

政治体制の違いを問わず、これまで世界各地の紛争には常に大国の影があり、武力は利権を手にするための手段として使われ続けてきました。そしていつも、市井にある人たちが犠牲になってきました。武力と制裁は解決にはつながりません。

一人ひとりの人権を守り、豊かに生きることの対極にあるのが戦争です。戦争を生きた祖父たちが、「人間を否定して、何もかも奪うのが戦争。絶対にさせたらあかん。そのための憲法」と言っていたのを覚えています。平和憲法を持つ日本こそ、武力ではない解決を探る役割を担えるよう努めなければなりません。その政権を作る力は私たち主権者にあります。

### 憲法を活かす政治を

憲法を尊重し擁護する義務を負っているはずの国会

議員ですが、人間の尊厳にかかわる条項や、平和憲法の根幹である9条の改悪を公言する人たちが台頭し始めていることに、とても危機感を持ちます。「人間を大事にする」ための様々な権利条項を徹底させることは、生活を支える最も大きな力であり、戦争を否定できる力だと、私は思います。

参議院選挙では、憲法をしっかりと政治に活かす議員を一人でも多く議会に送るために、野党間の共闘は必須です。私も、その役割をもって頑張っていきます。

## 新しい社会をめざして

私たちを取り巻く「気候危機とコロナ禍」「貧困と戦争」は、いずれも、現代社会の産物です。「気候危機」の要因は地球温暖化ですが、それは大量生産・大量消費の資本主義社会が発生させたCO<sub>2</sub>が原因です。また、「コロナ禍」は森林伐採など自然破壊の開發が、動物との接触を高め、動物社会の感染症がグローバル社会の進展で一気に世界的なパンデミックになりました。そして、「貧困と戦争」は、富者の理論と儲け至上主義の社会が生み出したものです。その根は同じです。

循環で成り立つ地球環境が資本の開發至上主義で崩れ

始め、地球自らがその浄化作用を私たちに課しているとも言えます。儲け至上主義、大量生産・大量消費、開發至上主義を改め、人権が大切にされ、持続可能な循環社会が、いま求められています。

それは「新しい資本主義」ではなく、「競争でなく共同」「私有・独占でなく共有・分与」。そして、「意思決定への市民参加が保証された」新しい価値観の社会です。皆さん、一緒にたたかきましょう。

(おかげさき さいこ)

## 筆者略歴

- ・ 1980年2月8日兵庫県明石市生まれ
- ・ 神戸市立葺合高校英語科卒業
- ・ 神戸市外国語大学外国語学部国際関係学科卒業
- ・ 2009年から新社会党兵庫県本部に勤務、総務・財政を担当する一方、党県本部青年委員会や女性委員会の事務局を務めながら、広く平和や憲法を生かすための市民運動をはじめ、青年運動や女性運動にかかわる。
- ・ 2021年から新社会党兵庫県本部書記次長に就任
- ・ 2022年党青年女性委員会代表